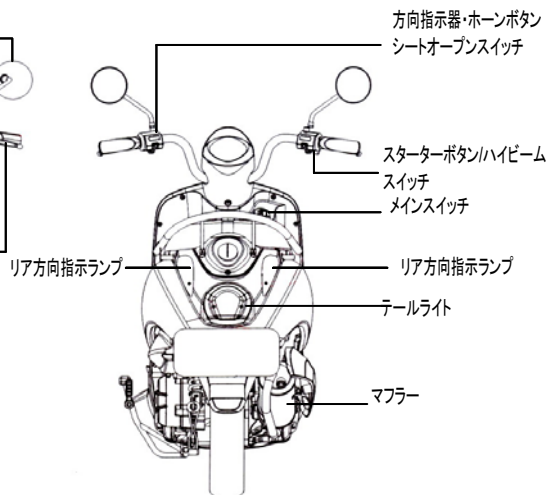
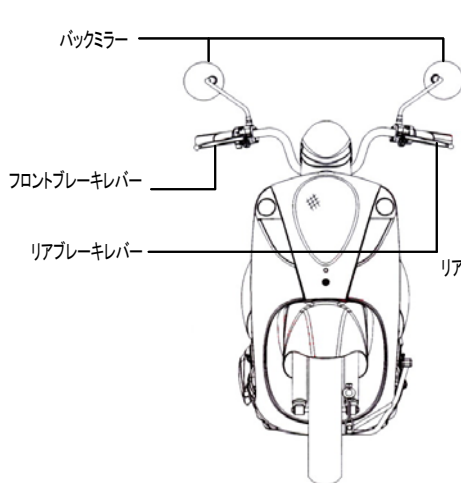
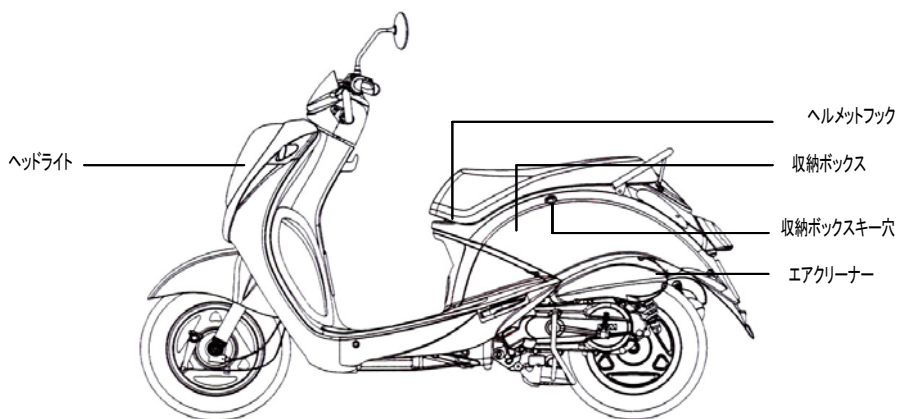
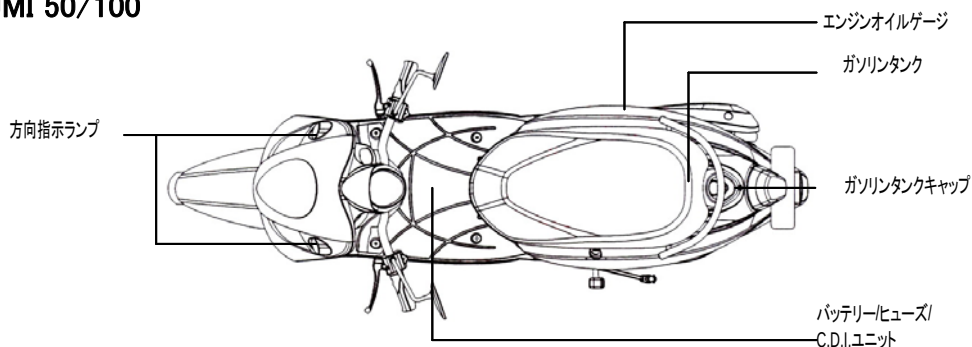


1. 内容	1
2. SYM車の保証	3
3. メンテナンスレコード	4
定期点検整備の記録	4
その他 臨時整備の実施記録	5
油脂液類・消耗品の交換記録	6
SYM からのおすすめ点検整備記録	9
4. コントロールロケーション	10
5. ご乗車前に	11
6. 純正スペアパーツ使用	11
7. 安全運転	12
8. ドライビング	13
9. 各種機能の使い方	15
ゲージ	15
イグニッションスイッチの操作	16
ボタンの使い方	17
シートロック	18
ガソリタンクキャップ	18
ヘルメットフック	18
シート下収納ボックス	18
ブレーキ	19
エンジン始動前の注意事項	19
10. 走り出しを快適に	20
スロットルバルブコントロール	20
駐車方法	20
11. 走行前の点検とメンテナンス	21
日常の点検	21
エンジンオイルの点検と交換	21
ガソリンの点検	22
トランスミッションオイルの点検と交換	22
ブレーキの遊びの点検と調整	22
ディスクブレーキの点検(ディスクブレーキ装置車に適用)	23
スロットルバルブクリアランスの調整	24
バッテリーの点検とメンテナンス	24

タイヤの点検.....	25
フロントサスペンションの点検.....	25
ヒューズの点検と交換.....	26
フロント及びリアライトの点検.....	26
ブレーキライトの点検.....	26
方向指示器とホーンの点検.....	26
ガソリン漏れの点検.....	27
車両各部の潤滑系機構の点検.....	27
スパークプラグの点検.....	27
エアクリーナーの点検.....	27
12. 異常な状況又はトラブルのとき.....	28
エンジンがかからないときの診断.....	28
13. 汚染排気ガス制御システム.....	29
14. 汚染排気ガス及び省ガソリンの方法.....	30
15. 汚染排気ガス排出の原因.....	31
16. 諸元表.....	32

UMI 50/100



このマニュアルではこのスクーターの正しい使い方とともに、安全走行、簡単な点検方法などをご紹介します。より快適で、安全な走行のためにも、このマニュアルを丁寧に注意を払ってお読み下さい。

お買い上げの SYM 特約店に操作マニュアルをお尋ねいただき、次の箇所を注意してお読み下さい。

- 正しいスクーターの使い方
- 納車前点検とメンテナンス

- オーナーズマニュアルやカタログにある写真やダイアグラムと車両の諸元や構造が修正されていたり異なっている場合は、実際の諸元や構造は改良されてよかったものをご判断ください。

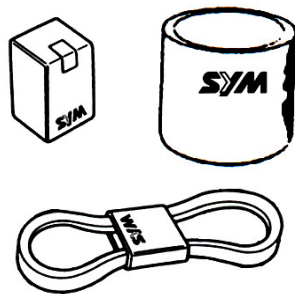
環境汚染防止の為に以下のことにご注意ください。

1. ガソリン:レギュラーガソリン(90 以上)を使用してください。
2. エンジンオイル:SAE 10W-40 API SH/CD または同等以上のエンジンオイルを使用してください。
3. 定期的メンテナンススケジュールにしたがって定期的な点検とメンテナンスを受けてください。
4. 環境汚染防止のためにも、排気系統の改造は絶対にしないでください。
5. 注意事項: 点火システム、充電システム、燃料システムは排気ガス触媒装置の正常な作動に関係しています。
6. エンジンがうまく作動しないときはすぐにSYM正規代理店に持ち込み点検修理の依頼をしてください。
7. レギュラーガソリン(90 以上)をご使用ください。

6. 純正スペアパーツの使用

二輪車の最高の性能を維持する為に、各パーツの品質、素材、精密性はもともとのデザインが要求するものに適う必要があります。“SYM 純正スペアパーツ”は現二輪車に使用されたのと同品質の素材が使われています。高度な技術と厳格な品質管理を通して生産される“SYM 純正スペアパーツ”を“SYM 特約店”から購入してください。廉価品や共用パーツを使用された場合は、メーカー保証の対象とはなりません。またトラブルの原因や二輪車の性能を低下させることがあります。

あなたの二輪車を安全快適に保ち、より長く使用できるよう SYM 純正スペアパーツを使用しましょう。



走行時にはリラックスして適切な服装であることがとても重要です。交通ルールを守り正しく運転しましょう。一般的に多くの人々は、新車購入時はとても慎重に運転されますが慣れてくると無謀な運転をしがちになり、事故やトラブルを引き起こしやすくなります



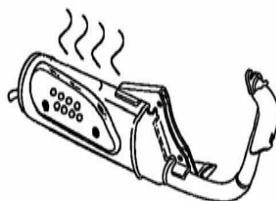
忘れないでください:

- ヘルメットを着用してください。二輪車に乗るときは正しくかぶりあげ紐を締めてください。
- 袖口の開いたものや、ゆるめの服は風をはらみ易く、袖口がハンドルに引っかかり安全に走行することができなくなります。ですから必ず袖口のしっかり閉まる服を着用してください。
- 走行時には、ハンドルは両手でつかってください。絶対に片手運転はしないでください。
- スピード制限を守ってください。
- かかとでの低い運転しやすい靴を着用してください。
- スケジュールに従って定期点検とメンテナンスをおこなってください。



警告!

- 後部シートに人を乗せる場合、マフラーでヤケドをしないように、必ず後部乗員がペダルに足を置くことを確認してください。
- 走行後、マフラーは大変熱くなっています。点検やメンテナンスを行う時はヤケドをしないようくれぐれも注意をしてください。
- 走行後、マフラーは大変熱くなっています。ほかの人がマフラーでヤケドをすることがないよう、車両を駐車する場所にも充分注意を払いましょう。



高温注意!!



注意!

改造車両は構造やパフォーマンスに影響があります。また、エンジン性能が低下したり、排気騒音をひきおこしたりします。結果として、その車両の寿命を短くすることになります。また、改造は違法であり、オリジナルデザインや諸元に不適合となります。当然、改造車両はメーカー保証の対象となりません。勝手に車両を改造したりしないようにしましょう。

三陽工業からのお願い:

- 二輪車乗車の時は必ずヘルメットを着用してください。
- 走行前には車両の点検を行い異常が無いか確認してください。
- 走行時は安全な車間距離をとってください。
- 交差点に入る前に減速して左右の安全確認後走行してください。
- 車両及び歩行者を優先してください。
- 安全の為、車両改造をしないでください。
- 安全の為、飲酒後の運転や、携帯電話を掛けながらの走行はしないでください。

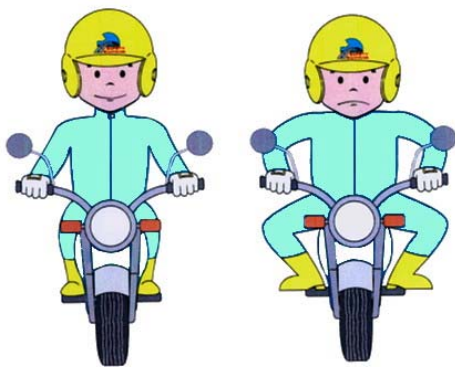
運転姿勢:

走行に当っては、身体の使用箇所、即ち腕、手のひら、腰やつま先を常にリラックスさせ、一番楽な姿勢で乗るようにしましょう。必要なときに素早く反応できるように常に心がけてのりましょう。

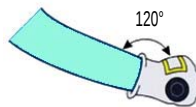
- 運転者の姿勢は安全走行に大きく関係します。常に身体の重心がシートの真ん中にあるようにしてください。もし身体の重心がシート後部にあると、前輪への負荷が減り、ハンドルが取られるようなことになります。不安定なハンドルでの二輪車走行は危険です。
- ターンする時に運転者が身体をターンする方向に傾けるとよりターンしやすくなります。反対に、運転者が身体と車両を傾けないと運転者は不安定に感じます。
- でこぼこ道、未舗装道路での二輪車の操作は難しいので、事前に道路状態を知るようにしてください。そして、スピードを少し落とし、ハンドル操作に肩の力を抜いて走行しましょう。
- お願い: 不用意にステップフロアの上に物を置かないでください。安全走行の妨げになりますし、ハンドル操作にも影響します。

正しい姿勢

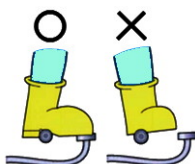
悪い姿勢



グリップ内側より指1本分開ける



腕の角度



つま先をステップにつける



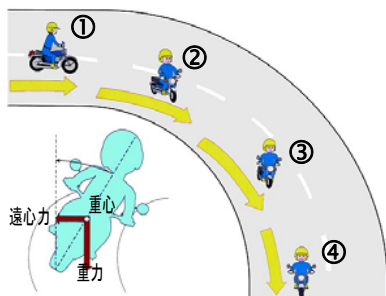
車体を挟み込むように

方向転換時のポイント:

- 方向転換時にターンする方向に運転者が体を傾けるとよりターンし易くなります。反対に運転者が体と車体を傾けないと不安定になります。

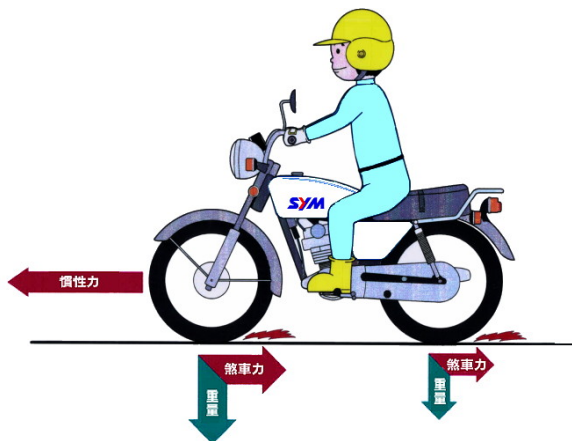
ターン走行中のキーポイント

- ①カーブの手前で減速すること
- ②カーブ走行中は速度を保つこと
- ③カーブを出る時は適度に加速し安定走行を保ちましょう。
- ④カーブを出た後は、前後を確認してから加速して走行しましょう。



ブレーキの要領:

- ブレーキをかける時は、前・後輪ブレーキを同時に掛けましょう。二輪車の性格上、片方だけ掛けると、片側に引っ張られ転倒し易くなります。車体をまっすぐに保ち急ブレーキは避けてください。タイヤがロックされます。
- 良く舗装整備された道路を走行する時: 後輪ブレーキより前輪ブレーキを少し強く掛けたほうが良いでしょう。道路状況に応じて、ブレーキを掛ける力をコントロールしてください。道路状況が悪い場合には前輪ブレーキをより軽く掛けてください。



悪路走行の注意点:

- でこぼこ道、未舗装道路、表面変化の激しい山道等では不安定な走行となりがちです。スムーズに走行できるよう予め道路状況を把握しスピードを落として、姿勢を安定に保ち、肩の力を抜いてハンドル操作をしましょう。

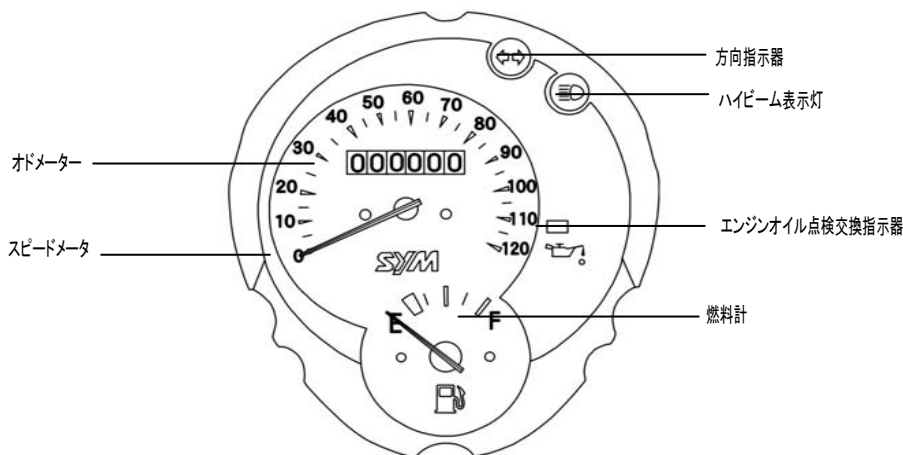


注意！！

- 布切れ等燃え易い物をボディサイドカバーとエンジンの間に置いたりしないでください。部材が火気により損傷を受けることがあります。
- 指定場所以外に荷物を載せないでください。車両を傷めます。
- ハンドル近くに荷物を積み過ぎないようにしてください。ハンドル操作の邪魔になります。
- 荷物がある時とない時とではハンドルに掛かる運転者の感覚が異なります。荷物の積み過ぎはハンドルをふらつかせ安定走行に影響します。特に過重な荷物は載せないように注意しましょう。
- 車両改造は構造やパフォーマンスに影響があります。エンジン等性能が低下したり排気騒音を引き起こします。結果的に車両寿命を短くすることになります。また改造自体違法行為です。車両改造しないように注意しましょう。

以下の説明は SYM スクーターの基本操作です。各モデル仕様により異なります。詳しくはマニュアルの後書をお読みください。

ゲージ <ゲージ表面デザインは機種により異なりますが一般的に同じことが言えます。>



スピードメーター

- 走行中の速度を表示。表示単位はキロメートル/時。

オドメーター

- 総走行距離を表示。キロメートル表示。

ハイビーム表示灯

- ヘッドライトをハイビームにした時に表示されます。

方向指示器

- 方向指示灯使用時に点滅します。

メーターカラーチェンジ(3色切替) [UMI100 限定]

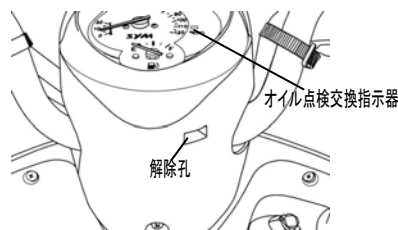
- メインスイッチを操作するたびにメーターカラーが赤、緑、青の3色に変化します。

燃料計

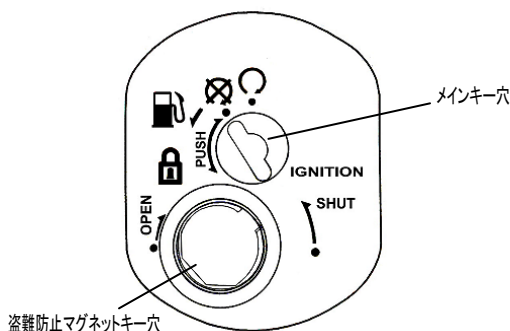
- メインスイッチが OFF にある時ガソリン表示はE位置にあります。
- メインスイッチが ON にあり、ガソリン表示がE位置にある時はすぐに燃料を補充してください。

オイル点検交換指示器

- エンジンオイル交換指示灯はオイル交換時期お知らせします、色によって判別します、普段は緑、最初の1000KMくらいに、指示灯が赤になります、即ち、交換時期と示す。検査後もしく交換後、図のようにキーを解除孔に挿し、指示灯が緑に切り替えます。車輛は1000KMごとに検査が必要です。状況によって足したりしてください。3000KMごとにオイルを交換してください。



イグニションスイッチの操作



盗難防止マグネットキー(デラックス専用)

- マグネットキーを盗難防止マグネットキー穴に差込み右に回すと開きます。
- メインキーをロックする時は、盗難防止マグネットキーをマグネットキー穴に差込み左に回します。

メインキー



“スタート”

この位置でエンジンは起動します。
キーは抜き取ることができません。



“ガソリタンク”

ガソリタンクキャップが開きます。
キーは“”からこの位置まで直接回すことが出来ます。
放すと“”に戻ります。



“ストップ”

エンジンをかけない時、エンジンを切る時に使います。
キーは抜き取ることが出来ます。

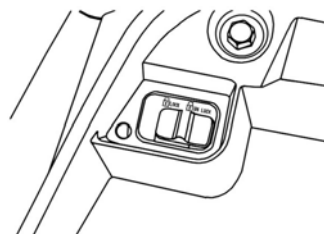


“ハンドルロック”

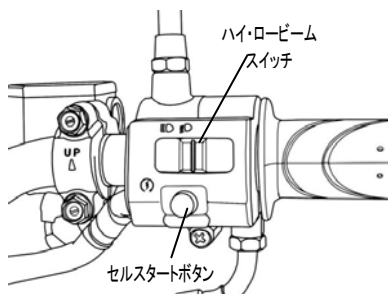
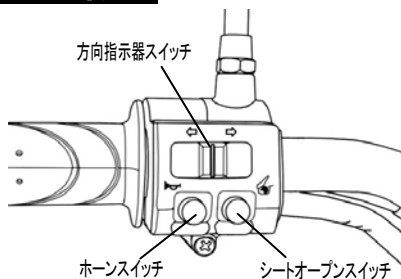
キーは軽く押し下げながら差込みまで回すとハンドルロックされます。キーは抜き取ることが出来ます。
ロック解除はから“”まで回すと解除されます。

イタズラ防止スイッチ

このスイッチはトランクボックス内にあります。
スイッチを“ LOCK”にセットするとエンジンは始動出来なくなります。
始動する時はスイッチを“ UN LOCK”にして下さい。
スイッチをセットした後はシートを必ずロックして下さい。



ボタンの使い方



ハイ・ロービームスイッチ



ハイビーム



ロービーム(街中での走行、対向車がある場合等に使用)

セルスタートボタン



エンジン始動時に使用します。

メインキーを "○" 位置にし、前輪又は後輪ブレーキをかけた状態でボタンを押します。



注意！！

- エンジン始動後は直ぐにボタンから手を離してください。
- セルボタンを押し続けるとエンジンを傷めます。

方向指示器スイッチ

- メインキーを "○" 位置に回すとスイッチが入り方向指示器ライトが点滅します。スイッチを押すとスイッチが切れます。



右方向転回ライト点滅は右方向に曲がることを示します。



左方向転回ライト点滅は左方向に曲がることを示します。

シートオープンスイッチ



メインキーを "○" 位置にして、このボタンを押すとシートが開きます。

ホーンスイッチ



メインキーを "ON" に回してボタンを押すとホーンがなります。

シートロック

- 解除：1. メインキーを入れ右に回します。
2. メインスイッチの電源を入れてからシートボタンを押します。
- ロック：シートを押下げると自動的にロックされます。

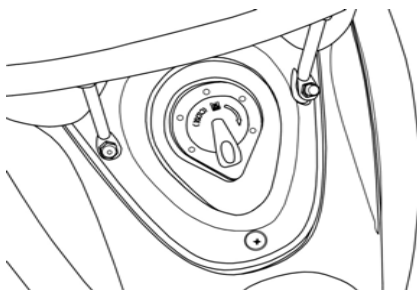


注意！！

- シートロックをかける前にキーを抜いたか確認してください。
- シートボックス内に物を入れ過ぎてロック解除が困難な時はキーで開けてください。

ガソリントankキャップ

メインスイッチキーをキー穴に差し込み左に回します。給油タンクキャップは自動的に開きます。給油後、カチッと音がしてキャップがロックされるまで押し付けながら右に回して閉めてください。



注意！！

- 給油は必ずメインスタンドで車両を安定させ、エンジンを切った状態で行ってください。火気厳禁です。
- 給油は上限を超えないでください。タンクキャップから溢れて危険です。また車両も傷めます。
- レギュラーガソリンを使用してください。

ヘルメットフック

- シートを開けフックに掛けてからキーを掛けます。

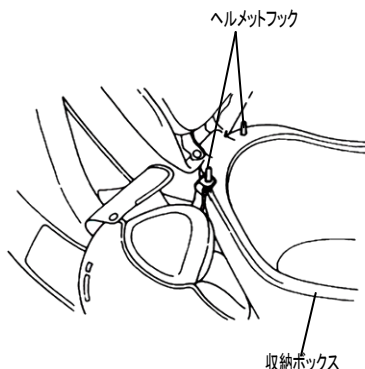


注意！！

- フックにヘルメットを掛けたままで走行はしないでください。車両を傷め、ヘルメットの機能低下にもつながります。

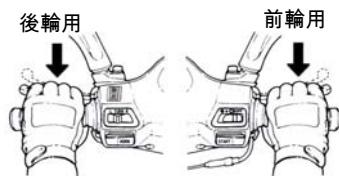
シート下収納ボックス

- シート下に収納ボックスがあります。
- 最大積載量は 10 キログラムです。
- シートロック後はしっかりロックされているか必ず確認してください。
- エンジン熱で高温になるので熱に弱いものは中に入れないでください。
- 洗車前に予め大切な物は取り出し水濡れしないようにしましょう。
- 貴重品は入れないでください。



ブレーキ

- 不必要なブレーキはやめましょう。
- 雨の日はスピードは控えめに、ブレーキは早めに掛けましょう。
- 長時間連続的にブレーキを掛けることは避けましょう。ブレーキが加熱し効きが悪くなります。
- ブレーキを掛ける時は前・後輪同時に掛けましょう。



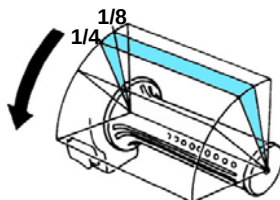
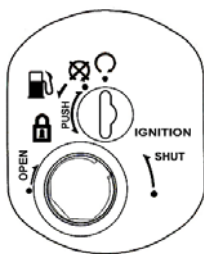
エンジン始動前の注意事項



注意！！

- エンジンを掛ける前にエンジンオイル、ガソリンが充分かどうか必ずチェックしてください。
- メインスタンドで安定させ、リアブレーキを掛けた状態でエンジンを始動させてください。車両が突然動き出すことがあります。

1. イグニションスイッチを “()” 位置まで回します。
2. アクセルを回さないでブレーキを掛けた状態でスターターボタンを押します。



注意！！

- スターターモーターを 3～5 秒回してもエンジンが始動しない時は、スロットルバルブを 1/8～1/4 回転ほど回して、スターターボタンを押してください。
- スターターボタンを 15 秒以上連続して押し続けしないでください。スターターモーターを傷めます。
- スターターボタンを 15 秒以上押してもエンジンが始動しない時は、10 秒間ほど経ってからかけ直してください。
- 長い間エンジンをかけることがなかった車両や、ガソリンが空のままで給油したばかりの車両はエンジン始動に少し手間がかかります。スターターボタンを何回も押す必要があるでしょうが、スロットルバルブは閉じたままでエンジン始動をしてください。
- エンジンが冷えている時はエンジンを温めるまで数分かります。
- 排気ガスには有害物質 (CO) が含まれます。よく換気のきいたところでエンジンを始動させてください。

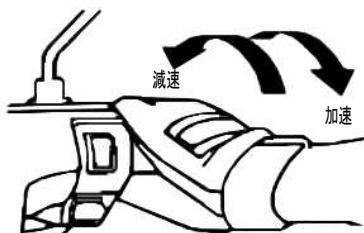
【キックペダルでエンジン始動する時】

- ステップ 1 の後、スロットルバルブを閉じたままキックペダルをカー杯押してください。
- エンジンが冷えてキックペダルで始動が難しい時は、スロットルバルブを 1/8～1/4 回転開けてやると、エンジン始動がし易くなります。
- エンジン始動後はキックペダルをオリジナルポジションに戻してください。

走り出す前に方向指示器を点けてください。後方から車両が来ていないことを確認してください。それから走り出してください。

スロットルバルブコントロール

- 加速：スピードを加速すること
- 減速：スピードを減速すること



駐車方法

1. 駐車場所に近づく時：
 - 早めに方向指示器を点けてください。前後、左右の車両に注意して道路左側にゆっくり寄ってください。
 - スロットルバルブをオリジナルポジションに戻して、早めにブレーキを掛けてください。
2. 完全に止まる時：
 - 方向指示器をオリジナルポジションに戻して、イグニッションスイッチを “” まで回してエンジンを切ります。



注意！！

- 交通妨害にならない安全なところに車両を駐車してください。

3. エンジンが完全に止まってから車両左側より降りてください。
 - 左手でハンドルを持ち、シート前先端を掴むか、右手でシート左下のパーキングハンドルを掴んでください。
 - 右足でメインスタンドを押し、地面にしっかりメインスタンドが安定するように降ろしてください。
4. ハンドルロックを掛け、駐車後は車両盗難にあわないようキーを抜き取ってください。



注意！！

- 走行後はマフラーが大変熱くなっています。子供達が触れて火傷をしないよう注意して駐車してください。

日常の点検

チェック項目		チェックキーポイント
エンジンオイル		エンジンオイルの量は充分ですか？
ガソリン		ガソリンの量は充分ですか？ レギュラーガソリン(90以上)ですか？
ブレーキ	前輪	ブレーキング状態は？(レバーの遊びは10-20mm)
	後輪	ブレーキング状態は？(レバーの遊びは10-20mm)
タイヤ	前輪	空気圧は正常ですか？(標準:1.75kg/cm ²)
	後輪	空気圧は正常ですか？
ステアリングハンドル		ハンドルが異常に揺れませんか？、動かしずらくありませんか？
メーター、ライト、バックミラー		正しく作動しますか？ライトは点灯しますか？後方ははっきり確認できますか？
メインコンポーネントの締め付け状態		ボルト、ナットの脱落、緩みはありませんか？
異常ポイント		以前のトラブルは直っていますか？



注意！！

- 日常の点検で何か問題が見つかった時は直ぐに修理してください。必要な場合SYM正規代理店、又は正規サービス店に車両を持ち込み、修理依頼をしてください。

エンジンオイルの点検と交換

- メインスタンドを使用して安定したところに車両を置いてください。エンジンを止めてから3-5分後にディップスティックを抜いてください。ディップスティックのオイルを拭き取りガイドチューブに挿入してください。(回転させないでください)
- ディップスティックを抜き取りオイルレベルが上限、下限の間にあるかどうかを確認してください。
- オイルレベルが下限より下の時は上限までオイルを入れてください。
- エンジンオイルはSAE10W-40 API SH/CD グレード以上のものを使用してください。それ以下の低質オイルを使用の場合はメーカー保証できません。
- オイル容量: umi50→0.8 リッター、umi100→0.85 リッター
- 通常交換時: 0.7 リッター

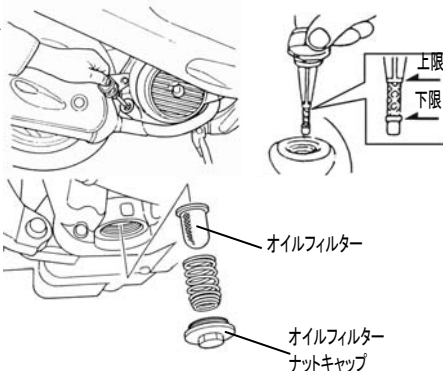
【オイルフィルター洗浄】

- オイルフィルターのナットキャップを開けて、フィルターを取り外します。ガソリン又はエアコンプレッサーで汚れを落とします。
- オイルフィルターはエンジン右下にあります。



注意！！

- 車両を平坦でない場所に止めた時や、エンジンを切ったすぐの時はオイルレベルを正確に測ることは出来ません。
- オイル交換をすると同時にオイルフィルターも調べてください。破損、異物がある場合は直ぐに交換してください。



ガソリンの点検

- ・メインスイッチを“○”位置にしてヒューエルゲージ針でタンク内にガソリンが充分あるかチェックします。
- ・この車両はレギュラーガソリンを使用するように設計されています。
- ・給油の際は、メインスタンドで安定したところに車両を止め、エンジンを切り、火気を遠ざけて給油してください。
- ・給油時、上限を超えて給油しないでください。走行中のトラブルを起こす原因になることがあります。また排気ガスコントロールシステムにも影響がでます。
- ・ガソリン給油口のふたがしっかり閉まっているか確認してください。

トランスミッションオイルの点検と交換

点検:

- ・安定した場所にメインスタンドを使用して車両を止めます。エンジンを切ってから3-5分待ってください。トランスミッションインフュージョンボルトを外し、ドレインボルトの下に計量グラスを置いてからドレインボルトを外してください。オイルを計量グラスで受け、標準容量有るかを確認してください。
(標準容量:110 cc / 交換時:90-100 cc.)。

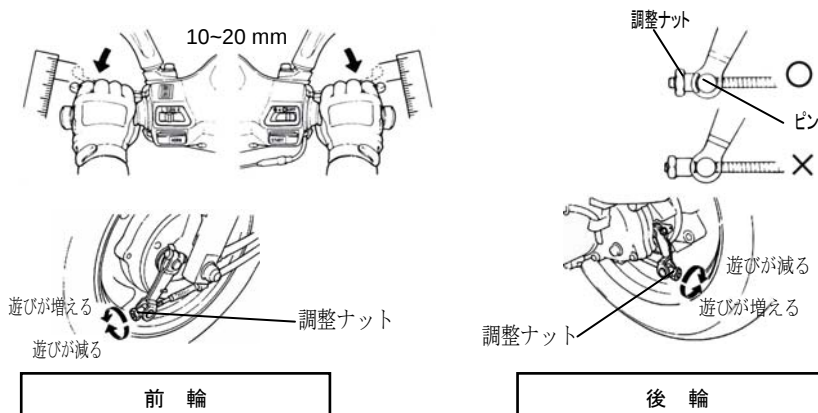
交換:

- ・エンジンを切り、メインスタンドを使用して安定した場所に車両を止めてください。インフュージョンボルト、ドレインボルトを外してからオイルを抜き取ってください。
- ・ドレインボルトを戻し、しっかり締めてください。新しいトランスミッションオイル(90-100 cc)を入れてください。インフュージョンボルトを戻し、しっかり締めてください。(ボルトがしっかり締まっているか、オイル漏れがないかを確認してください。)

※ 推薦オイル: SYMハイポイドギアオイル (SAE85W-140) の使用をお薦めします。

ブレーキの遊びの点検と調整

- ・前・後輪ブレーキアームの調整ナットを回してブレーキレバーの遊びの調整をします。
- ・調整後両手でブレーキレバーを握ってブレーキの効き具合を確認してください。
- ・ブレーキの遊びは10-20mmです。
- ・定期的にSYM正規代理店でブレーキライナーの磨耗程度を点検し、磨耗がひどい場合は直ぐに交換してください。
- ・ブレーキ調整ナットを締めるとピンは直線的に動きます。



ディスクブレーキの点検

(ディスクブレーキ車限定)

- 目で見てもブレーキラインの漏れ、損傷がないかを確認してください。レンチ等の工具でブレーキライン連結部の緩みがないかを確認してください。ステアリングハンドルの振動がないか、ブレーキラインに損傷を起こしそうな部分をチェックしてください。万一異常があれば車両をSYM正規代理店に持ち込み、修理するか整備を受けてください。
- ブレーキを作動させライナー磨耗をチェックします。
- ブレーキキャリパーの後方からブレーキを点検してください。ブレーキパッドの限界部分がディスクに当たっている時はブレーキパッドを交換してください。

ブレーキオイルリザーバーの油量点検

- 車両を安定した場所に停めてから、オイルレベルが下限より上にあるかチェックしてください。補充が必要な時は WELL RUN DOT3 をお勧めします。



注意！！

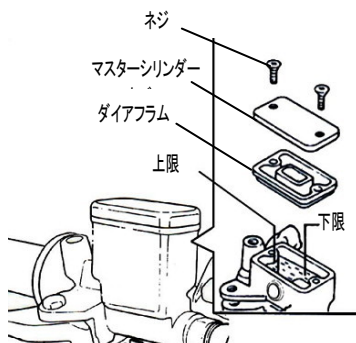
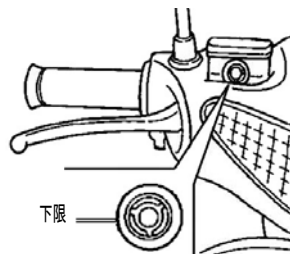
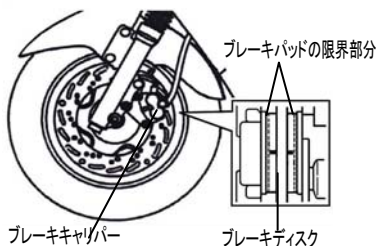
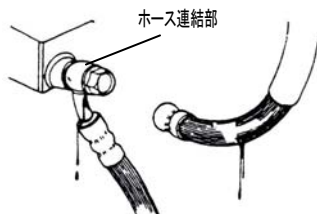
- 車両が傾いている時、エンジンを切ったすぐは正確なオイル計量は出来ません。
- 化学反応を起こしますので低質なブレーキオイルは使用しないでください。
- ブレーキオイルを追加する時は上限を超えて入れないでください。車両を傷めるので、塗装部分やプラスチックコンポーネントにオイルが付かないようにしてください。

- ネジを緩めマスターシリンダーカバーを外します。
- リザーバーの中に異物が入らないよう慎重にリザーバー周りの異物や汚れを拭き取ってください。
- ダイヤフラムプレートとダイヤフラムを外します。
- ブレーキオイルを上限まで加えてください。
- ダイヤフラムプレートとダイヤフラムを戻してマスターシリンダーカバーを取り付けてください。
- ダイヤフラムの向きに注意してください。マスターシリンダーカバーをしっかり締めてください。



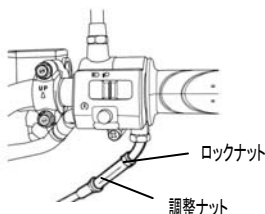
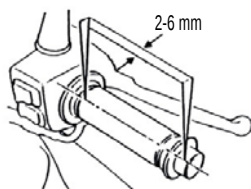
注意！！

- エンジンを切ってから、ブレーキオイル補充のチェックをしてください。



スロットルバルブクリアランスの調整

- 2-6mm の遊びでクリアランスを調整してください。
- ロックナットを緩め、調整ナットを回して調整してください。ロックナットを終わり迄しっかり締めます。
- 調整後、スロットルバルブの回転、ハンドルの左右への動きに異常がないか、ケーブルが邪魔しないですムーズに動くか確認してください。

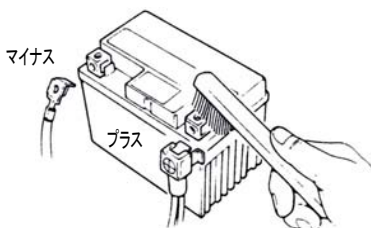


注意！！

- スロットルバルブケーブルがスムーズに動くかチェックして高速走行時のスピードコントロールに危険が無いようにしてください。

バッテリーの点検とメンテナンス

- この車両にはメンテナンスフリータイプのバッテリーを装備しておりますので、点検も通電確認も不要です。万一異常が見つかった場合にはSYM正規代理店にご相談ください。
- バッテリーターミナルクリーニング: バッテリーターミナルを外し、汚れや腐食を清掃してください。
- バッテリー取外し手順: イグニションスイッチを “ ” にして、バッテリーボックス蓋を開けます。先にマイナス側ケーブルを外しそれからプラス側ケーブルを外します。



注意！！

- バッテリー端子が腐食していたり白粉が付着している時は熱湯で端子を清掃します。
- 端子の腐食が激しい時はケーブルを外し金ブラシかサンドペーパーで清掃してください。
- 清掃後は端子に薄くグリスを塗り、バッテリーケーブルを取り付けてください。
- バッテリーケーブルは取外し時と反対の手順で取り付けてください。

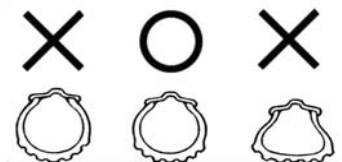


注意！！

- 密閉タイプのバッテリーです。キャップは絶対にはずさないでください。
- バッテリーは長期間利用しないで放置していると、漏電・自己放電で使用不能になります。バッテリーを車両より取外し、充電後通風のある暗いところに保管してください。車両にバッテリー搭載のままの時はマイナスケーブルを外しておいてください。
- バッテリー交換が必要な時は、必ず密閉タイプのメンテナンスフリーバッテリーを使用してください。

タイヤの点検

- タイヤはエンジンを切ってから、点検や空気入れをしてください。
- タイヤの接地面の形状が異常な時は、空気圧ゲージでチェックの上、規定圧まで空気を入れてください。
- 寒い時は空気圧ゲージによりタイヤ空気圧のチェックをしてください。



標準タイヤ空気圧仕様を参照

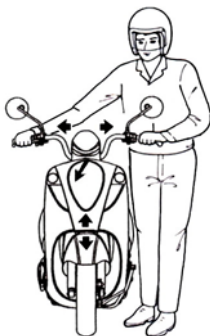


- ひび割れや損傷が無いタイヤ前面、横面まで視認してください。
- タイヤ溝に釘や小石が刺さっていないか視認してください。
- トレッドグロブが充分かどうかトレッドスリップサインをチェックしてください。
- スリップサインが見えるタイヤは磨り減っていますのですぐに取り替えてください。



フロントサスペンションの点検

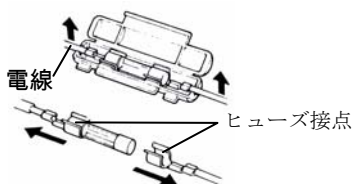
- エンジンを止めキーを抜取ってから行ってください。
- サスペンションの損傷があるか視認してください。
- ハンドルを上下に動かして異音がないか傾きがないかをチェックしてください。
- レンチでボルト、ナットの締め具合をチェックしてください。
- ハンドルを上下、左右、前後に揺らして、緩みや過剰な抵抗や一方に引っ張られたりしないかをチェックしてください。
- ブレーキケーブルにより片方に引っ張られすぎないかハンドルをチェックしてください。



ヒューズの点検と交換

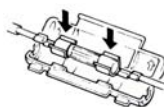
- ・メインスイッチの電源を切ります。
- ・ヒューズはバッテリーの近く、ヒューズボックスの中にあります。
- ・外側キャップを開け、ヒューズボックスのふたを開けます。ヒューズの両端を取って上にひっぱってください。ヒューズの接合部からヒューズ線を引き張りあげてください。
- ・ヒューズが切れていないか点検してください。夜間走行中、ヒューズが切れてライトが突然消える場合があります。
- ・ヒューズが切れた時は、指定の7Aのものは絶対使用しないでください。また、代わりに銅線、鉄線などを使用することは絶対にしないでください。電気システムを破損することがあります。
- ・交換してすぐにまたヒューズが切れる場合は電気回路そのものに異常があります。すぐにSYM正規代理店に車両を持ち込み点検を受けてください。

【取出】



【取付け】

上から押付けながら入れる



- ・フロント及びリアライトの点検
- ・イグニションスイッチを "  " にしてエンジンを始動させヘッドライトとリアライトの点灯をチェックしてください。
- ・ヘッドライトの明るさと方向を壁に当てて確認してください。
- ・ヘッドライトカバー、リアライトカバーの汚れ、クラック、緩みをチェックしてください。

ブレーキライトの点検

- ・イグニションスイッチを "  " に回し前後輪のハンドブレーキレバーを握ってください。ブレーキライトの点灯を確認してください。
- ・ブレーキライトカバーの汚れ、クラック、緩みをチェックしてください。

方向指示ライトとホーンの点検

- ・イグニションスイッチを "  " にします。
- ・方向指示ライトの前後、左右の点滅をチェックしてください。
- ・方向指示ライトカバーの汚れ、クラック、緩みをチェックしてください。
- ・ホーンボタンを押して作動するか点検してください。ホーンがなるかをチェックしてください。



注意！！

- ・方向指示器ライトには規定のスペックのバルブを使用してください。もし異なったスペックを使用すると通常の方向指示器の作動に支障が生じる可能性があります。
- ・後続車の運転者に注意を促す為、方向変換やレーン変更の前には方向指示ライトを点けてください。
- ・方向指示ライトは使用後直ちにボタンを押して解除してください。もしそのまま点けたままですと、後続車の運転者に方向指示ライトの点滅で迷惑になり、また大変危険です。
- ・電装系の改造は負荷が多く掛かりショートの原因にもなり車両焼失の可能性もあります。絶対にしないでください。

ガソリン漏れの点検

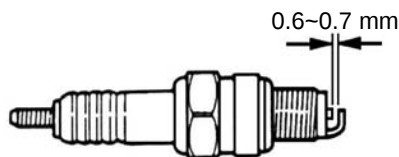
- ガソリントank、給油口キャップ、ガソリンホース、キャブレターの漏れをチェックしてください。

車両各部の潤滑系機構の点検

- 車体ピボット部分の潤滑油が充分かどうかチェックしてください。
(例:メインスタンド、サイドスタンド、ブレーキレバー等のピボット部分)

スパークプラグの点検

- プラグケーブルのキャップを外してください。
- 電極の汚れ、カーボンかすによる汚れが無いことをチェックしてください。
- 電極のカーボンかすは金ブラシで取ってからガソリンでスパークプラグを洗浄し、布切れで拭いて乾かしてください。
- 電極をチェックしてギャップを0.6-0.7mmに調整してください。
(フィラーゲージで測ってください)
- スパークプラグは手締めした後にレンチでさらに1/2-3/4回転締めてください。



警告: 走行直後、エンジンは大変熱くなっています。火傷をしないように充分注意してください。

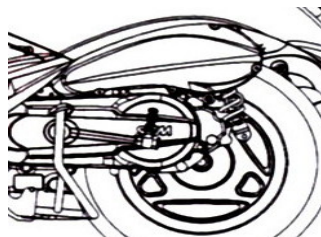
※メーカー推薦のエンジンスペックに適ったスパークプラグのみを使用してください。(スペック参照)

エアクリーナーの点検

付着ホコリは出力減少やガソリン浪費の主要原因の一つです。

<分解手順>

- エアクリーナーカバーからマウンティングネジを外してください。
- エアクリーナーカバーを外してフィルターエレメントを取外してください。
- エレメントを取り出し洗浄してください。



<組付手順>

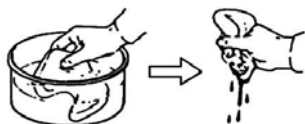
- 分解の時と反対手順にて組付けてください。

エアクリーナー



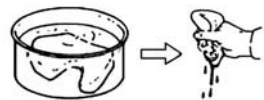
注意！！

- エアクリーナーが正しく装着されていないとホコリがシリンダー内部に吸収され、早期磨耗を起こし、出力減少やエンジン寿命を短くすることになります。
- 車両を洗浄する時は、エアクリーナーを水浸しにしないように注意してください。エンジン始動が困難になることがあります。
- エアクリーナー後部に透明パイプがあります。クランクシャフトボックス漏気システムのオイル排出パイプです。1,000 キロ走行毎にパイプ内オイルを点検してください。



1. 浸す

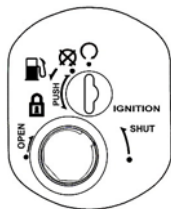
2. 搾り出し乾かす



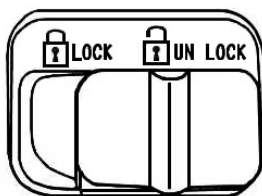
3. 浸す

4. 搾り出し乾かす

エンジンが掛からない時



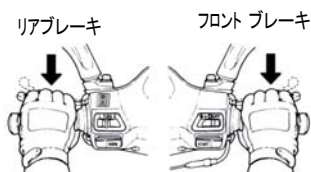
1. イグニションスイッチは “〇” にありますか？



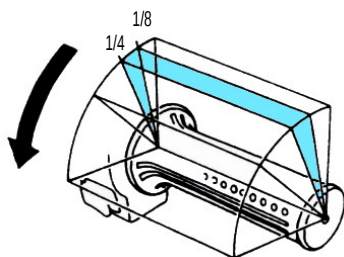
2. エンジンコントロールスイッチは “ UN LOCK ” の位置にありますか？



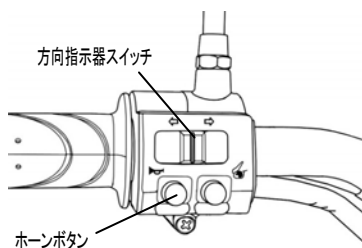
3. ガソリンは充分ありますか？



4. セルスターターを押す時に前・後のいずれかのブレーキを掛けていますか？



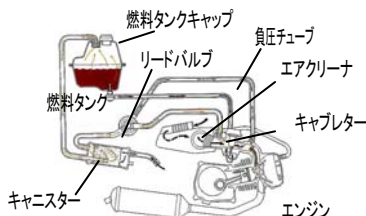
5. セルスターターを押してからスロットルバルブを回していませんか？



6. イグニションキーを “〇” にして警笛ボタンを押してください。警笛が鳴らない時はヒューズが飛んでいるかも知れません。

【上記に該当するところがなくエンジンが起動しない場合は、すぐに SYM 正規代理店が取扱店に車両を持ち込みチェックを受けてください】

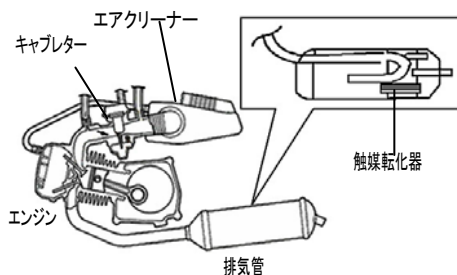
蒸発ガスコントロールシステム



システム性能:

ガソリンタンク等蒸発ガスコントロールシステムからの蒸気は密封された各パイプに流れ込みます。空中への直接排出を防ぎ乍ら蒸発ガスはキャニスターボックスに導かれます。ボックス中の炭素粒子を利用してオイルエア中の化合物を吸収しエンジン起動時の吸引力で再度燃焼されます。

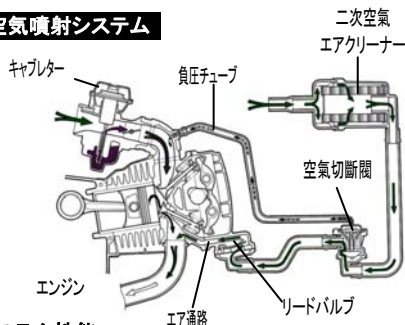
触媒転化器



システム性能:

触媒転化器は排気システム中に装着されています。不完全燃焼有毒気体の CO, HC, NOX はエンジンから出て触媒転化器に流入後、触媒反応により無害気体の CO₂, H₂O, NO₂ 等になります。

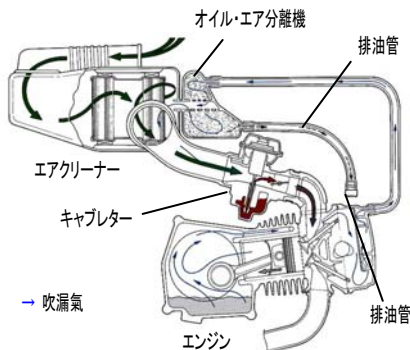
空気噴射システム



システム性能:

エンジン排気管に二度空気が流れ込み排気中の CO, HC は酸素との出会いにより再度燃焼し無害の CO₂ と H₂O になり排出されます。

ブローバイガス還元システム



システム性能:

エアクリナーに通気孔を開けると同時にオイルエア分離機を装置しています。クランクシャフトボックスから漏れるエアを噴出させます。シリンダー内部とオイルエア分離機により分離されます。分離したオイルエアはエンジンの吸引力でキャブレターに流れ燃焼室に入って燃焼するので空中に排出されません。分離したオイルは排油管に保存され定期的に排除されます。



注意！！

- レギュラー以上のガソリンを使用してください。低質ガソリンは触媒装置を傷めます。

排気ガス中の環境汚染物質：ガソリンの不完全燃焼は CO と HC を作り出す要因です。ガソリンの無駄でもあります。車両の性能を維持する為、排気ガスの減少とガソリン等の節約の為に定期的な点検とメンテナンスが重要です。

1. エアクリーナーの交換と清掃

エアクリーナーはシリンダー内にあるホコリや汚染物質を濾過する役割を持ちます。積もったホコリや、湿気が高いと空気はスムーズに流れません。エアクリーナーの通気性が悪くなると、ガソリンと空気の混合比が濃すぎて不完全燃焼し、パワーが無く、ガソリン浪費と共に多量の排気ガスの発生原因となります。汚れて通気性の悪くなったエアクリーナーは新品と交換してください。必ずSYM純正のエアスクリーンを使用ください。純正品以外を使用の場合は通風量不足等でガソリン浪費や環境汚染の原因になります。

2. キャブレター調整と交換：キャブレターの調整が悪いとガソリンと空気の混合比率が濃すぎたり薄すぎたりなり、不完全燃焼を起こしたり、ガソリンの無駄になり、空気汚染の原因にもなります。

キャブレター不良の主要原因：

- (1)キャブレターの油面は必ず規定通りにしてください。
- (2)チョーク不良、適正値に調整してください。
- (3)キャブレターの老化で各オイルパイプが正常に機能しなくなりガソリン浪費になります。新品と交換してください

3. スパークプラグの清掃・調整と交換

スパークプラグのホコリを取りギャップを調整します。異常があればすぐに新品と交換してください。抵抗が上がり火花が小さくなり不完全燃焼やガソリンの浪費、パワー不足になり空気汚染の原因ともなります。

4. エアバルブの調整と交換

エアバルブの磨耗、密封不良やスイッチ不良は不完全燃焼の原因となります。定期的に点検調整してください。磨耗がひどい時は新品と交換してください。特にエアバルブのギャップが正確に調整されていないと充分な混合気量を得ることが出来ません。

5. オイル交換時は上限を超えないこと：

オイル面が高すぎると燃焼室までオイルが上がり炭素がたまります。混合気の燃焼に影響し、エンジン出力が弱いとかガソリン浪費、空気汚染の原因になります。

6. 点火タイミングを正確に：

強力な火花で完全燃焼するとエンジンパワーは大きくなり、ガソリン節約、排気ガス減少になります。異常時にはすぐにCDIユニットを交換してください。

7. 燃料節約と汚染減少。エンジン老化や磨耗はガソリン浪費に繋がります。部品の点検をしてください。

8. 燃料及び点火系統を常に良好な状態に維持することは、間違いなくガソリン節約と環境汚染減少になります。

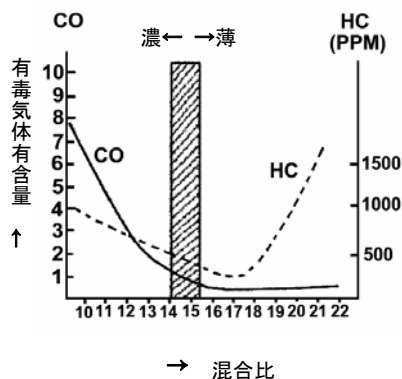
9. 以下の事項に配慮してください。ガソリン節約と環境汚染減少になります。

- (1) 車両は暖気運転をしてから走行しましょう。
- (2) 走行時はスロットルバルブを軽く握り一定の速度を保ち必要以上にアクセルをふかさないでください。
- (3) 停車・駐車時は早めに減速し、急ブレーキは避けましょう。

10. メンテナンス、調整、点検を受けた車両は最高の状態になっています。加速時に余りにスムーズで力不足に感じられますが、ガソリン節約と空気汚染減少に繋がります。元に戻さないでください。ガソリン浪費とエンジン磨耗を早めることになります。

CO	HC	原因
高	正常	ガソリンと空気の混合比率が濃い
正常	高	1. 点火系統不良 ● 点火タイミング不良 ● スパークプラグの汚れ、ギャップ不良 ● CDI点火コントロール不良 ● 点火コイル不良 2. 排気エアバルブ磨耗 3. シリンダー磨耗
低	高	1. 混合気が濃すぎるか薄すぎるとエンジンは掛かりにくい 2. エア漏れ ● 負圧チューブ漏れ ● インレットパイプ漏れ ● ワッシャー・オーリングジョイント漏れ
高	高	1. エアクリナー不良 2. キャブレター不良 ● 混合気が濃すぎる ● 液量不良 ● チョーク不良 ● エアスクリー・ニードルバルブ磨耗 3. PCVバルブの緩み 4. 触媒転化器磨耗又は不良

車両排煙異常の原因
1. オイル過剰 2. オイルポンプ調整ミス又は不良 3. 不良オイル又は低質オイル使用 4. エンジン老化、磨耗 5. 長時間低速走行(時速 20-30km以下) 6. マフラーの汚れ



項 目	Umi 50	Umi 100
全長/全幅/全高	1,710/ 700 / 1,005mm	1,720 / 720 / 1,020mm
軸間距離/シート高	1,170 mm / 720 mm	1,220 mm / 725 mm
乾燥重量	80.0 kg	87.5 kg
最小回転半径	1.8 m	
ヘッドライト (high/low)	12V 30W / 30W ×1	
リアライト / ブレーキライト	12V 5W / 18W ×1	
前/後方向指示ライト	12V 10W ×4	
前/後方向指示ライト	12V 3W ×1	
プレートライト	12V 3.4W ×2	
スピードメーターライト	12V 1.7W ×1	
ヒューズ	7 A	
バッテリー容量	TTZ7SL	
点火プラグ	C6HSA	
前輪ブレーキ	ドラムタイプ (Ø110mm)	ディスクタイプ (Ø160mm)
後輪ブレーキ	ドラムブレーキ (Ø 95mm)	ドラムタイプ (Ø110mm)
タイヤ (前/後輪)	前輪 3.0-10 - 42J 後輪 90/90-10 - 50J	前輪 90/90-10 - 50J 後輪 90/90-10 - 50J
空気圧 (1 人乗車)	前輪 1.5 kg/c m ² 後輪 2.25 kg/c m ²	前輪 2.0 kg/c m ² 後輪 2.25 kg/c m ²
空気圧 (2 人乗車)	前輪 1.5 kg/c m ² 後輪 2.50 kg/c m ²	前輪 2.0 kg/c m ² 後輪 2.50 kg/c m ²
種類	4ストローク 単気筒 空冷	
ボア・ストローク	Ø37mm / 46mm	Ø50mm / 51.5mm
圧縮比・総排気量	12.6:1 / 49.5 c.c.	10.5:1 / 101 c.c.
最大出力	2.8kw(3.8 ps) / 8,000 rpm	5.7kw(7.7 ps) / 8,000 rpm
最大トルク	3.73Nm(0.38 kg-m) / 6,500 rpm	7.5Nm(0.77 kg-m) / 6,500 rpm
登坂能力	20°以上	26°以上
アイドリング	2,000 ±100 rpm	1,700 ±100 rpm
点火方式・起動方式	C.D.I. / セル&キック式	
ガソリンタンク容量	4.8 リッター(レギュラーガソリン)	
エンジンオイル容量	0.8 リッター(交換時 0.7 リッター)	0.75 リッター(交換時 0.6 リッター)
ミッションオイル容量	100cc(交換時 90cc)	110cc(交換時 100cc)

- ・ オーナーズマニュアルやカタログにある写真やダイアグラムと車両の諸元や構造が修正されていたり異なっている場合は、実際の諸元や構造は改良されてよかったものとご判断ください。



保証約款

保証の発効

SYM の車両保証は、モータリスト合同会社と車両売買契約並びにアフター・サービス契約を締結した販売店（以下「SYM 取扱店」）が SYM 保証登録フォームへ必要事項を入力、送信後、有効となる。

保証期間

SYM の車両は、顧客が製品を購入しその製品の登録が完了した日から 12 か月間、本約款の規定に則り保証される。なお、本保証は新車を購入したオーナー（所有者）にのみ適用され、保証期間満了前に転売がおこなわれた場合には、保証の譲渡は認められない。

保証の内容

SYM の車両は、オーナーズマニュアルに記載された取扱要領に則った通常の取り扱いを行われて運用されていること、ならびに指定された定期点検を SYM 正規取扱店にて受検していることを条件として、生産上の欠陥、材質等に起因する不具合において、規定に従って修理または交換の実施を保証する。

保証修理の請求

保証修理のための移動、運搬は購入者の責任において、SYM 取扱店へ持ち込む必要がある。その際、登録書類、保証書、点検実施の確認のできる書類を持参する必要がある。

保証修理は SYM 取扱店の認められている作業場でのみ行うことができ、不具合の確認後直ちに行う必要がある。

保証の否認

保証修理適用の可否については、SYM 取扱店にて、購入車両と不具合を実際に診断した上で判断する。

使用者の遵守事項

道路運送車両法では日常点検と定期点検の実施が義務付けられている。定期交換部品、油脂類の交換は指定された頻度で行うこと。

ユーザーマニュアル記載の取扱い方法にしたがって適切に使用すること。

保証適用外の事項（以下の原因による故障または不具合は保証対象外）

通常の使用による摩耗、傷、自然劣化、自然退色

購入した製品を、取り扱いに関する指示書（ユーザーマニュアル、メンテナンススケジュールなど）に従わなかった場合購入した製品がサービスの提供を認可されていない作業場により整備された場合

SYM から使用が許可されていない部品が装備された場合購入した製品を SYM が許可しない方法で改造した場合

不注意または不適切な取扱いや誤用（競技等の目的で使用） 不適切な保管に起因した問題
機能や性能に影響のない感覚的な事象（音、振動、液体のしみなど） 転倒、追突、衝突などの事故に起因する不具合

天災および火災に起因する不具合

煤煙、降灰、酸性雨、オイル、薬品、鳥糞、塩害、飛石に起因する不具合

結露など、自然現象や環境条件に起因する不具合経年変化による劣化とみなされる症状
車両が盗難・放火・悪戯等により被った損害

SYM が指定した規格以外の燃料や油脂を使用したことに起因する不具合

異常を発見していたのにも関わらず放置、継続使用したことに起因、拡大した不具合

負担しない費用

消耗部品及び油脂類等（タイヤ・バッテリー・ブレーキパッド等を含む）

法令及び SYM が指定する点検整備、その他の点検、調整、清掃ならびに定期交換部品
車両を使用できなかったことによる損失（通信費、引き取り納車費用、交通費、宿泊費、休業補償、商業損失） SYM 純正品以外の部品

アクセサリやコンポーネントを車両に取り付け、接続したことによる動作の変化、純正部品の損傷、電気系の不具合、データ損失

保証期間内に確認された不具合にもかかわらず、保証期間終了後に報告した場合の修理費

その他

保証規定ののっとり取り外された部品はモータリスト合同会社の所有物となる。

モータリスト合同会社